

新！電動シニアカート

～電動シニアカートとICTで「市民にやさしいまちづくり」～

グループ名	安彦ゼミ北陸まちづくり研究会
提案代表者	3年満中 彩圭
参加者	3年牧野 愛海
	4年塚本 昌美

地方の生活を豊かにする「新！電動シニアカート」

提案者	仁愛大学 安彦ゼミ 満中彩圭 牧野愛海 塚本昌美
実施地域	高齢化 まちづくり QOL向上
概要	シニアカーに距離画像センサ、加速度センサ、ジャイロセンサ、GNSS、通信ジュールを搭載する。それによって、歩道の3次元点群データを抽出し、段差や坂、地方に多い整備が進んでいない道などを走行するときの安全を担保し、地方での普及に特化したものにする。また、大学機関が作成する専用アプリによってシニアカーで外出をする高齢者の詳細な現在地を家族や介護者はいつ、どこにいても把握することができる。さらに、センサーが反応したGNSS情報は日時や頻度とともに蓄積される。このビッグデータを分析し、安心・安全かつシニアカーが利用しやすいまちづくりを実現する。さらに、このシニアカーから取得できる情報と各地方整備局が保持するMMSデータを重ね合わせることで、「全ての道路を補完した3次元道路データ」を作成する。これをもとに地域ごとの「安全な道」と「危険な道」を特定し、「近道」だけではなく「安全な道」を利用者に提案するナビサービスを開発するプロジェクト。地方が抱える交通問題にコミットし、同時に「やさしいまちづくり」を実現することが狙い。

図1 関係図



※1高齢者の自由かつ自立した外出をサポート。シニアカー走行時のリスク回避が可能なため安全に利用可能。免許返納後の生活の幅を広げる有用なモビリティに

※2ビッグデータの取り扱いは委託企業と大学機関が連携して行う

※3 分析した情報から個人情報を除いたものを自治体に提供

※4市民にやさしいまちづくり実現によって地域住民の満足度向上

※5県外のひとたちのナビサービスに繋がり、地域全体のさらなる安心安全にも繋がる

※6外出する高齢者を家族が見守れるアプリ。緊急時に、より早く事態を察知し対応が可能に